

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教師の協働的な学びの一考察

川崎市立中野島小学校

深田 淳一

本研究の目的は、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、その理解に向けた教師の協働的な学びを実践し、その効果を検証することである。A校での実践結果から有効な協働的な学びの在り方を探る。

平成29年3月に公示された小学校学習指導要領では、これからの時代に求められる資質・能力を身に付けるためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が必要であるとしている。「主体的・対話的で深い学び」を実践するためには、その目的や意義を十分に理解する必要があると考え、教師の協働的な学びによってその理解を図ることとした。協働的な学びをワークショップ型研修と捉え、教職員が自己の実践を振り返りながら「主体的・対話的で深い学び」について話し合う研修を行うようにした。講義形式の研修ではなくワークショップ型研修を行う理由は、講師から知識を伝えられるのではなく、日々児童と向き合い授業実践を行っている教職員自らが、話し合ったり考えをまとめたりしながら、「主体的・対話的で深い学び」とはどのようなものなのかを明確にしていくことが重要だと考えたからである。

実践結果から、ワークショップ型研修を用いたことによって、教職員が「主体的・対話的で深い学び」につい

て具体的なイメージをもって理解することができ、今後の授業改善への意欲や必要感が高まった。しかし、ワークショップ型研修だけが理解の深まりにつながったのではなく、多忙な校務の合間を縫って研修に取り組んでくれた教職員の熱意が、非常に大きな役割を果たしたと考える。教材研究や授業改善に向けた取り組みが、本来は教職員として最優先の業務であるが、学校現場の実態は、その他の校務に追われて十分な時間を確保できていないのが現状である。そんな中、授業改善に向けた「主体的・対話的で深い学び」の必要性を感じ、どの教職員も熱意をもって研修に取り組んでくれた。よりよい学びを児童にもたらそうという思いが、学校全体に広がっていることを知ることができたことも、大きな成果だと言える。

ワークショップ型研修の様子



課題解決方法の流れ

